

平成23年度シルバー110番の相談状況



相談件数は1,700件超が続く

平成23年度の高齢者やその家族の方々などからの相談状況は次のとおりでした。1年間の相談件数は、1,761件で前年度より66件減少しましたが、ここ4年間1,700件を超える高い状況が続いています。

相談件数

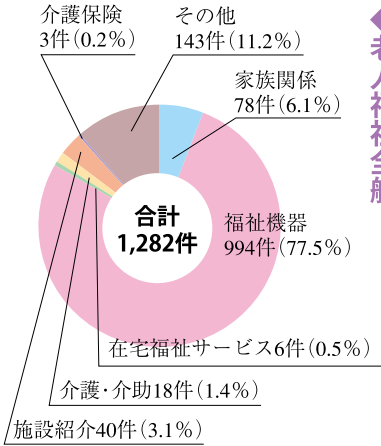
区分	21年度		22年度		23年度	
	件数	構成比(%)	件数	構成比(%)	件数	構成比(%)
老人福祉全般	1,222	65.8	1,276	69.8	1,282	72.8
経済・生活	83	4.5	98	5.4	123	7.0
法律	447	24.1	369	20.2	281	16.0
保健・医療	102	5.5	69	3.8	73	4.1
いきがいづくり	3	0.1	15	0.8	2	0.1
合計	1,857	100.0	1,827	100.0	1,761	100.0

項目別相談状況

相談内容を項目別にみますと、「老人福祉全般」が1,282件で前年度同様最も多く全体の約7割、次いで「法律」が281件であり、この2項目で全体の約9割を占めています。

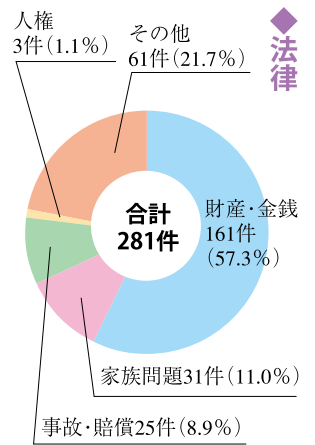
また、相談を医師・弁護士・福祉機器相談員などによる「専門相談」とその他の「一般相談」に分類しますと、「専門相談」が1,113件で約6割、「一般相談」が648件で約4割となっています。

◆老人福祉全般



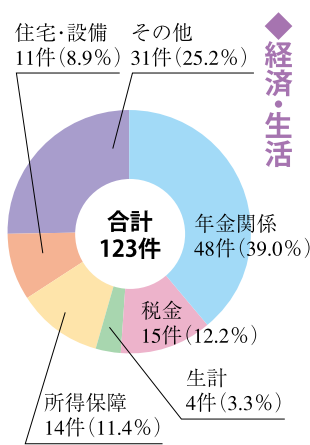
最も相談件数の多い「老人福祉全般」の中では、在宅介護の推進に欠かせない「福祉機器」に関する相談が最も多く994件で全体の7割以上を占め、「家族関係」78件、「施設紹介」40件、「介護介助」18件などとなっています。

◆法律



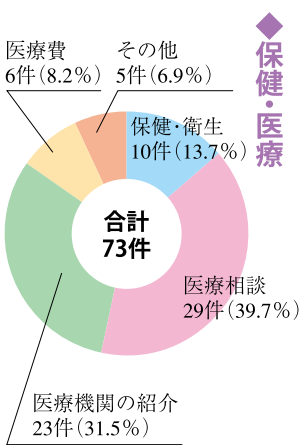
相談件数が2番目に多い「法律」では、相続や借金整理などの「財産・金銭」に関する相談が161件で約6割を占め、以下「家族問題」31件、「事件・賠償」25件などとなっています。

◆経済・生活



「年金関係」に関する相談が48件で最も多く約4割を占めており、以下「税金」15件、「所得保障」14件、「住宅・設備」11件、「生計」4件などとなっています。

◆保健・医療

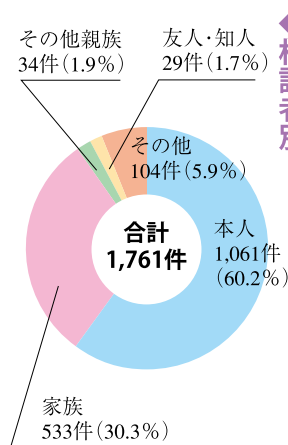


「医療相談」が29件で約4割を占めており、以下「医療機関の紹介」23件、「保健・衛生」10件などとなっています。

利用形態別相談状況

「医療相談」が29件で約4割を占めており、以下「医療機関の紹介」23件、「保健・衛生」10件などとなっています。

◆相談者別



本人からの相談が1,061件と約6割を占め、次いで家族、その他親族で本人を含む身内からの相談が9割強を占めています。「その他」は、市町村社協・施設の職員や民生委員などです。

◆性別

